



富山県

No.61 2011年10月

中央植物園だより



コスモス

漢字では「秋桜」とも書くコスモスですが、この花には青空がよく似合います。台風一過のような青い空に向かって咲くコスモス。風に揺らぐ姿はまさしく秋本番です。

「爽やかな秋」 撮影／上野貴司さん（第14回私の植物写真展応募作品）

第5回 秋のラン展



富山県中央植物園では、毎年11月に富山県蘭協会との共催により「秋のラン展」を開催しています。この季節にラン展を開催するのは、カンラン（寒蘭）がちょうど見ごろを迎えるからです。カンランは日本と台湾にだけ分布するランで、花の姿は繊細で、かつ大変良い香りがします。花の美しさだけでなく、香りもお楽しみ下さい。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

「野生植物の王国」中国雲南省の植物」 — 写真で振り返る日中共同研究 —

富山県中央植物園と中国を代表する植物研究機関である中国科学院昆明植物研究所との交流は、1993年の中国雲南省産植物の導入にはじまり、今日まで続いています。特に2001年から始まった10年間にわたる日中共同研究はこれまでに例がなく、植物関係者の間で高く評価されています。

雲南省の最も低い場所は標高76.4m、最も高い場所は6740mで、標高差が実に6,000m以上あります。そのため、雲南省には熱帯から高山までの気候帯があり、日本とほぼ同じ面積ながら、日本の約3倍の17,000種類の野生植物が生育しているといわれています。中国雲南省は「野生植物の王国」とも称され、植物関係者の憧れの場所でもあります。

共同研究の主な対象植物は第1期（2001～2002年度）のペゴニアからはじまり、第2期（2003～2004年度）のマメ科、第3期（2005～2006年度）のアヤメ科、第4・5期（2007～2010年度）のトウツバキでした。もちろん、野生植物の宝庫ですから、それ以外のたくさんの魅力的な植物に出会うこともできました。

この企画展「野生植物の王国」中国雲南省の植物 — 写真で振り返る日中共同研究 — では、この10年間に富山県中央植物園の研究スタッフが中国雲南省で行った調査・研究の様子や、中国雲南省の文化、魅力的な植物を写真で紹介します。



古林箐秋海棠 (*Begonia gulingqingensis*)



西南鳶尾 (*Iris bulleyana* : セイナンアヤメ)



トウツバキの園芸品種

植物園のこんなところ紹介 ドリアスホール

植物園の展示温室の間には木で作られた小さな建物があります。これがドリアスホールです。ドリアスホールは、平成15年3月に富山国際職藝学院の方に建てていただきました。建築材は主に富山県産のスギを使い、伝統木造構法によって釘や金具をできるだけ使わないで建てられています。

木材には湿度の調整や光を和らげる効果がありホールの中では心が和みます。扉を開けると、真っ先に太い木材が使われた天井の梁に驚かされますが、これも木を組み合わせており、地震にも強い構造になっています。ホール内には大きな正方形の机が6つと長いすがあって、ここでは事前の団体申込みによって、植物を使った工作をしたり、植物に関する興味深いドリアス講義などを受けることができます。利用予約が無い時には、どなたでもご利用いただけます。部屋の壁や窓枠上には、植物画の作品や植物写真展で賞を得た作品が展示してあり、これらを眺めるのも気持ちが休まります。

入口を入った左側には休養室兼授乳室がありますので、小さいお子様への授乳やオムツの交換、また気分が悪くなった方の休養に利用できます。



ドリアスホールの全景

植物園 トピックス

■きのこ相談

植物園の事務室前に立っている写真の立て札をご覧になった方もあるでしょう。植物園には、年中多くのきのこが種名の同定や食毒判断のために持ち込まれ、特に秋にはきのこ相談の順番待ちができることがあります。きのこは生長段階や発生環境によって色が異なることが多く、市販の図鑑を用いた絵合わせは非常に危険です。きのこの食毒判断は人の命に関わる可能性があるため、植物園では電話やメールでは相談を受け付けず、必ず全てのきのこを持って来ていただけるようお願いしています。担当職員の不在の場合もありますので、来園前には必ず電話でご連絡ください。



研究紹介◎『立山のタテヤマキンバイ』

主任 吉田 めぐみ

その名前に立山を冠するタテヤマキンバイ (*Sibbaldia procumbens* L.) はバラ科タテヤマキンバイ属の多年草で、日本では立山の一ノ越で初めて発見された植物です。世界での分布は広く、ヨーロッパアルプス、北ヨーロッパ、シベリア、北アメリカ北部と周北極地方に広く分布しています。日本では北海道(大雪山)、本州(北アルプス北・中部、木曾駒ヶ岳、南アルプス)に希産するとされ、絶滅危惧種に指定している県もあります。

立山一ノ越のタテヤマキンバイ群落は1978年に特定植物群落に選ばれ、当時群落の選定と調査をされた大田弘先生は「立山ではこの場所が唯一の生育地である」と書いています。植物の大きさが小さく、花もとても小さく目立たないため、なかなか見つけにくい植物です。私自身も平成9年に一ノ越で登山道脇に見た後、10年間見ておらず、どうなったか気になっていた植物でした。2009年に特定植物群落選定30年後の現状調査としてこのタテヤマキンバイ群落を含む5つの群落を調査し、その結果、30年前よりもタテヤマキンバイが衰退しているように見受けられ

ました。

そこで昨年、この群落を詳細に調査したところ、タテヤマキンバイの個体数は予想以上に多く、水平方向35m×垂直方向30mの範囲内に100個体が生育していました。植生調査の結果、タテヤマキンバイはアオノツガザクラやコメススキ、チングルマなどが優占する群落に生育しており、特に植被率が低い裸地で、小さな砂利状の石が堆積した場所で、コメススキやミヤマタネツケバナなどの植物と同所的に生育していることが明らかになりました。

立山の他の場所でタテヤマキンバイがあるかどうかを探索していますが、今のところ見つかっていません。よって一ノ越のみが立山においてタテヤマキンバイが確認されている唯一の場所であり、また個体数も100個体と大規模な生育地であると考えられます。しかしチングルマやアオノツガザクラとの混生群落ではこれらの植物の生育が旺盛でタテヤマキンバイの生育が阻害されている状況も見受けられました。そのため今後ともこの群落を注意深くモニタリングしていく必要があると考えられます。



開花中のタテヤマキンバイ



タテヤマキンバイの生育状況

植物園の植物紹介2

屋外展示園の植物



美しく紅葉するシラキ

シラキ

シラキはトウダイグサ科の樹木で、主に太平洋側の常緑広葉樹林帯上部からブナ帯下部にかけて分布し、富山県では極めて少ない種類の一つです。材が白いことからこの名前がつけられたといわれています。樹高5mぐらいまで成長し、花は初夏に咲きますが、あまり目立ちません。ところが秋（11月ごろ）に美しい紅葉を見ることができます。葉ごとに色が異なるだけでなく、1枚の葉でも濃い赤から黄色までさまざまな色に発色します。近年、庭木として苗木が販売されているようです。

シラキと同じ仲間に中国原産のナンキンハゼがあり、これも紅葉が美しいのでよく知られています。西日本では街路樹に植えられているナンキンハゼの種子が、鳥によって運ばれて都市近郊の森林に侵入する問題が起こっています。

見られる場所：ミズナラ・ブナの森（日本の植物ゾーン）

展示園課 山下寿之

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展には入園料が必要です。

「野生植物の王国」雲南省の植物 —写真で振り返る共同研究—

9月30日(金)～10月26日(水)

第5回「秋のラン展」

11月18日(金)～20日(日)

「クリスマスの植物」

11月25日(金)～12月25日(日)

「干支にちなんだ植物展」

12月26日(月)～1月25日(水)

■特別開園

「花とみどり・ふれあいフェア」

12月9日(金)～11日(日)

「クリスマスミニコンサート」

12月10日(土)・11日(日)

13:00～16:00

(詳細はお問い合わせください)

■講座・講習会

植物画講習会Ⅱ ◆要申込

10月1日(土)・2日(日)

10:00～16:00

参加費/入園料が必要です

★県民植物学講座

「身近な植物に親しむ」◎要申込

③10月16日(日) 13:30～15:30

「雲南省から来た植物」

④10月30日(日) 13:30～15:30

「お茶を楽しむ」 参加費/500円

⑤12月18日(日) 13:30～15:30

「ワタから糸をつむぐ」

★栽培講習会②

「ランの栽培と管理」

11月19日(日) 13:30～15:00

11月20日(日) 13:30～15:00

★花と緑の教室

クリスマス花飾り、フラワーアレンジメント、プリザーブドフラワー、レインボーサンドの各教室

(詳細は(財)花と緑の銀行

TEL.076-466-2425まで)

■月例行事

緑のコンサート

10月1日(土)・11月5日(土)

14:00～15:00

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要です

日曜植物案内

第1日曜日 13:30～14:30

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要です

◎要申込

事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。

◆要申込

事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から往復はがき・FAX・メール(botanic@bgtym.org)で受付けます。

★印はボランティア養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日(4月中と祝日の場合は開園)、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下無料
冬季入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 400円
団体料金(20名以上) 320円
高校生以下無料

交通案内 JR富山駅から、富山地铁バス「ファボーレ経由萩の島循環」または「ファボーレ経由速星行き(休日のみ)」に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.61

編集・発行/富山県中央植物園(指定管理者:財団法人 花と緑の銀行)
〒939-2713 富山市婦中町上善田42 TEL 076-466-4187 <http://www.bgtym.org>
平成23年9月20日発行 印刷/中村印刷工業株式会社